行 政 視 察 報 告 書

令和８年 11 月 3 日

長浜市議会議長　様

長浜市議会議員　　矢守　昭男

私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

記

１．視察等名　　総務教育常任委員会行政視察研修
２．視察期間　　令和８年１０月２８日（水）～１０月２９日（木）
３．視察場所及び目的
　①　静岡県磐田市
　　小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて
　②　東京都武蔵野市
　　学校給食を核とした食育の推進について
４．調査内容感想等

・視察の目的
静岡県磐田市
① 小中一貫教育とコミュニティ・スクールについて

小中一貫校については、平成 25 年度から準備を進められ、平成 28 年度から開始されています。各種データをもとにコミュニティ・スクールを基軸にされています。磐田市は中１ギャップを原因とする不登校出現率が小学校の２．４倍あり、その取り組みは長浜市での不登校児童生徒へ向けた小中一貫校での対応として参考となる視察研修となりました。

・視察内容

カリキュラム・マネジメント推進のポイントとして、学校運営協議会など地域の方々の協力をもとにした学府内のチームとされています。

令和８年度は、10 学府が目指す『資質・能力』と教育課題について取り組まれ

ています。

学府の目標実践①「対話と共感が育むしなやかな心」が今回の視察の中で特に参考となりました。学校風土向上作戦でのリスニングトレーニングを通じてのレジリエンス育成などは、長浜市でも個別取り組みでなく小中学校全体での取組として活かしていきたいと思います。

学府の目標実践②「視察の中で心を育む系統的なカリキュラム～確かな学力向上の取組」や一貫校としての不登校未然防止の取組などが参考となりました。

学府の目標実践③「大規模交流と志の実現～視察内容で未来を切り拓く心豊かな子供の育成」では、３つのプログラムと１５００人大交流会の開催により気づき、考え、行動をする力を養うことを目的とされており、少子化対策や小規模学校を抱える本市としても非常に参考となる視察内容となりました。

学府の目標実践④「地域と連携したたくましさの育成」では、地域への愛着を持ち未来をたくましく生きるための育成、達成経験・成功体験を積み重ねる「たくましさ育成プログラム」を作成されています。地域人材バンクの活用などポジティブな行動支援策の実践は、長浜市の学校教育に必要不可欠な取組内容として参考になりました。

磐田型・小中一貫校教育の推進エンジンと 9 年間の発達段階の共有について学府全体での歩調を合わせる仕組みなどが参考となりました。

なかいずみ学府の取組では、不登校児童生徒が減ったとの実績があり、不登校支援のインフラ整備、心理的安全性の保障の仕組みが参考となりました。具体的な内容で自習・協働・リラックス出来る環境整備が行われています。体験の連携や市独自のスピーキング評価による圧倒的な英語力の向上、グローバル社会・多文化共生社会を目指したコミュニティ・スクール、各校特有課題を子どもたちと行う熟議、子ども達がやりたいことを実現するサポート体制などの事業を予算化（はごろも補助金活用）して子ども達の取組を生かしておられます。CSD（企画・総括）CSC（マッチング・調整）など明確な役割分担と協働を支える拠点スペースとして機能を発揮し、学校運営協議会委員の資質向上などの取組も行われています。いずれにしても学校と地域が創る新しい教育のカタチづくりにより充実した環境を整備されていることはとても参考になりました。

小中一貫校の推進、充実型・向上型・未来型に分類した各校の取組の中で、通学路の環境整備としてスクールバスの課題対応に苦慮されていましたが、保護者・地域の方々との連携体制を構築され、課題への迅速な対応をされています。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

① 地域と教職員の意識の変化、学校運営協議会の活動を反映された取組内容、小規模校から大規模校までの全体的な大交流会を参考にし、本市の施策反映に参考となる有意義な研修視察となりました。

② 小中一貫校の学びを通じ、教職員・学校運営協議会・地域の連携による不登校児童生徒の減少に繋がる取組内容は、長浜市内小中学校への取り組みとして参考となる視察研修となりました。

・視察の目的

東京都武蔵野市

② 学校給食を核とした食育の推進について

学校給食を提供する財団設立の経緯、食育推進のための食育授業の取組、有機農家との連携体制構築によるオーガニック等食材の提供について

・視察内容

・一般社団法人武蔵野市給食・食育振興財団を設立した狙いや、行政との役割分担におけるメリット・課題について

・給食費と廃棄量：小中学校の 1 食当たりの給食費、中学校の保護者負担額の現状と、年間の給食廃棄量について

・有機食材の普及と部署間連携:有機食材を給食に取り入れるための農業従事者との取組の経緯や、行政の縦割りを超えるための工夫、地元の有機食材が不足する場合の対応について

・一般社団法人武蔵野市給食・食育振興財団を設立した狙いや、行政との役割分担における、メリット・課題について

・全国各地からの食材流通組織の体制によって準備されていました。人材確保については課題があるとのことでした。

・給食費と廃棄量：小中学校の 1 食当たりの給食費、中学校の保護者負担額の

現状と、年間の給食廃棄量について

今年度の１食単価は、小学校で 280 円を予定していたところ食材購入価格高騰により 340 円で提供する額となり、中学校では 340 円から 450 円に上がりました。

年間の給食廃棄量については現在１割程度とのことです。

長浜市内の小中学校では、アレルギー対策のために給食のおかわりはできませんが、武蔵野市では、おかわりができます。そのアレルギー対応策を長浜市の学校給食に活かせればと思います。

給食調理室の見学について

広さとしてはコンパクトです。食材搬入搬出についてきめ細かにチエックする機能があり、食材を調理工程で分けられ、小人数２班制による人材確保などの工夫で人件費の削減に努められていました。長浜市２給食センターの参考になる見学となりました。

給食を食べさせていただきましたが、長浜市の学校給食の量より多く、満足度の高い給食を提供されていることに感動しました。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

一般社団法人武蔵野市給食・食育振興財団を設立した狙い、行政との役割、人材確保や人件費削減などが参考となりました。

長浜市の学校給食センターは、食材の安定確保のために県外からの食材購入がメインとなっていますが、有機食材や食育に繋がる取組となるよう長浜市学校給食の更なる努力を促し、活動範囲が広がるよう今回の先進地視察研修を生かしていきたいと感じる有意義な視察研修となりました。